

太陽の子

2026年 4月 No.195

春の号

発行



日上市助川町5-14-8
TEL(23)2620 FAX(33)9150
ホームページ <http://www.taiyonoie.com>
Eメール npo@taiyonoie.com
NPO法人 日立太陽の家
日立重症心身障害児(者)を守る会
日立太陽の家支える会



春の日差しに包まれて Okaeri café でひととき、午後の療育の個別時間を利用して仲間や職員、ボランティアさんとの何気ない会話に笑顔の輪が広がります。(太陽の家)

あったかステーション 風の家

NPO法人 日立太陽の家 理事長 小又克也

この山に登り始めたのはいつの頃だったのかは覚えていないが、この山はほんのり暖かくて「笑顔と感謝」に包まれている。

なんとも居心地がいい。

この山に登る路はとても緩やかだけど、山頂までにはまだまだ道のりのようだ。

ここでは何人もの人が山登りを楽しんでいて、先日は医療従事者の方々に出会った。お医者さんの時もあるし、看護師さんの時もある。学生さんにもお会いする。

どの方も同じ頂を目指しているので話も弾む。

ある日、会話を通して『医療連携型』という言葉が閃く。『医療連携型障害者総合支援事業』、『医療連携型児童発達支援事業』。

福祉と医療が更に強く連携ができたらと思うとたくさんの可能性が見えてきた。今までよりもっとたくさんの人たちの笑顔が見える、そんな期待を抱いてしまう。

太陽の家に『あったか事業』と呼んでいる事業がある。まだ法整備が整っていないために困っていることがあったら、なんとか少しでも解決したいという事業だ。

この山で出会う人たちに応援の声をかけをしたら、このあったかほもつともつと暖かくなるに違いない。そうだ、これは『地域連携型あったか事業』と呼ぶことにしよう。

法人が以前グループホームとして使っていた「風の家」をこれらの事業の拠点として活用することにした。そしてこの拠点に『あったかステーション風の家』と名前をつけた。これからも末長くよろしくお願ひします。

新年度を迎えての抱負

その笑顔にありがとう

日立市ひまわり学園 サービス管理責任者

佐藤 美沙

利用者さんの持つている力って本当にすごいなと感じます。

私が落ち込んでいるとき、利用者さんが近づいてきて笑ってくれます。肩をたたくてくれます。頭をなでてくれます。近くに寄り添っていてくれます。下を向いていると覗き込んだり、「今日はいつもと違うな」と声をかけてくれます。

利用者さんの成長にはゴールがありません。昨日よりも今日、今日より明日と、どんどんできるが増えます。毎日が「すごい！こんなこともできるんだね」と発見の連続で驚かされています。それと同時に保護者の方の愛情を強く感じます。そんな一面を見られるととても嬉しい気持ちになります。

NPO法人日立太陽の家には「笑顔と感謝」という言葉

があります。簡単なようで難しい。でもひまわり学園は自然とそれが叶う場所だなと私は思っています。利用者さんの笑顔に自然と笑顔になれる場所。いつも笑顔で「ありがとう」。

改めまして

どうぞよろしく

日立市太陽の家 サービス管理責任者

宇留野 郁美

本年度より、太陽の家生活介護のサービス管理責任者を務めさせていただくことになりました。

これまで支援員として皆さんと関わる中で、利用者さん一人ひとりの生活や思いに寄り添う支援の大切さを学んできました。

前年度2月からは療育時間・内容の見直しを行い、落ち着いて活動に取り組み、保護者の方にも利用しやすい体制作りへ調整を進めています。こうした取り組みが続けながら、利用者の皆さんが安心して

過ごせる環境作りに努めていきたいと考えています。

至らない点も多いかと思いますが周囲のみなさんご指導をいただきながら、皆さんの日々を変わらず楽しく過ごしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

出会いと別れ

日立市いの木学園 サービス管理責任者

武藤 桂子

出会いと別れは突然やってくるものです。私がいよいよ木学園で働き出してから、いくつもの出会いと別れがありました。その中で、今の自分には何ができるのか？それは利用者さんや保護者の方々と向き合い、日々の支援の中からその声に耳を傾けること。そして今何が必要か、何ができるのかを一緒に考えて行くことだと思っています。最近では将来を考え、次のステージに向けて、チャレンジしている方もでてきています。私たち支援員だけでなく、相談支援員さん、他事業所さんなど、協力体制を整えると共にさらに連携を密にし、みなさんが

安心して生活を送れるサポートができるようにしていきたいです。

新年度になり、二名の利用者さんが入園しました。また、昨年度は長年一緒に仕事をしてきた利用者さんの退園もありました。とても寂しく、複雑な気持ちでもありました。が、新たな場所でもその方らしく、生活を送れることを、そしてまた笑顔で会えることを願っています。

「今、できることを……」

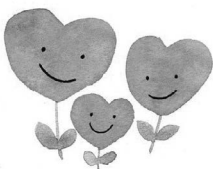
日立市母子療育ホーム
児童発達支援管理責任者

堀江 浩子

世界情勢が偏りかける前に、1冊の絵本と出会いました。本の内容は、「戦争と平和」でした。敵も味方も、同じ人間で同じように朝が来る、その中に出てくることも、世界共通でそこには「せんそう」という言葉は存在せず、輝かしい未来しか想像することができませんでした。飛び込んでくる悲しいニュースを耳にし、どうしようもない虚無感に襲われ、小さな子どもたちの未来を想像してしまいます。

そのたびに、自分になにができるのかを考えさせられています。

現在は、母子療育ホームで、児童発達支援管理責任者という立場で、子どもたちにとって、また、親御さんにとつての最善策を考えることが、今の自分にできることです。子どもたちが登園してくる際に、一番にこどもの表情を見て、どんな気持ちかな？と考えます。笑顔で降りてくる子ども、来る前の出来事に納得のいかない表情を見せる子もいます。お母さんは疲れていないかな、お母さんたちもリフレッシュできるといいなと考えています。そして、お見送りの際にも良い表情が見られるように、ホームで過ごす時間が充実したものとなるように、職員と協力しながら、歩んでいきたいと思っています。誰もが、安心して気持ち良く過ごせる場所でありませうように。



感謝を胸に、
新たな一歩へ

日立市共同生活援助施設
サービス管理責任者

富岡 昌弘

今年度より、障害者共同生活援助施設のサービス管理責任者を担当させて頂いた。これまで約五年半にわたり、太陽の家で勤務し、重症心身障害の方々に関わらせていただきました。初めての経験に戸惑い、思い悩むこともありましたが、利用者の皆様が見せてくださる笑顔や小さな成長に幾度となく励まされ、支えられてまいりました。その時間は、私にとつてかけがえのない学びの日々でした。

また、日頃より温かく見守り、支えてくださった保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。配属から五か月後にサービス管理責任者を担当することとなり、その責任の重みを胸に、一歩一歩歩んでまいりました。これらの経験が、今の私の礎となつております。

これまでの経験と皆様への感謝の思いを大切に、利用者の皆様が安心して過ごせる環境づくりに誠心誠意、取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしく願います。

今必要なことを

日立太陽の家 居宅介護事業所
サービス提供責任者

澤島 喜美

通称！居宅は多くの経験を積んだ職員が15名在籍しています。

冬の朝、断水になり、入浴介助ができなくなりました。そんな時こそ普段できないことをしようと、機転を利かせ、今必要なことを考え、急な変更への対応も無事に終えました。経験豊富な職員ならではの冬の1日でした。しかし長く同じ仕事をしていると、どうしても慣れや、緊張感の低下、固定観念にとらわれること、などへの注意が必要なものも忘れてはいけません。そしていろいろな課題や改善点もみえてきます。そんな時は相談です。……今必要なことは？ 利用する方も職員も安全に不安を感じない方法は？ その方

に合ったサービスのいろいろな意見を出し合い、改善していきます。より良いサービスのためには関わる方々との相談や声かけ、協力しあうことも大切に行っています。これからも笑顔と感謝を忘れずに利用する方はもちろん、ご家族も職員も、安心して過ごせるサービスを続けていけたらと思います。そのためには、たくさんの方が協力をお願いします。

地域の方々との
つながりを

日立太陽の家 相談支援事業所
管理者主任相談支援専門員

横田 寿子

昨年度は近隣に通所施設が数か所新設され、10名以上の方々と繋ぐことが出来ました。訪問診療へも3名の方が繋がっています。体調が悪い時に時間をかけて病院に出かけ、何時間もかかって受診をされていましたが、医師や看護師さんに自宅に来ていただく事で、本人や家族の負担が減り安心もできるようになりました。年齢によつては親亡き後の生活をどうしたら……

と、心配される方もいます。成年後見人について数名の方とお話をする機会もありました。利用者様、保護者様のネットワークもすばらしく、皆様から情報を得ることも沢山ありました。以前は一事業所のサービスを利用する方が大半でしたが、今ではそれぞれの生活スタイルに合わせ、数か所の事業所を利用する方が増えています。多様なサービスを選択することが出来るようになりました。新しい環境や生活へのわくわく感と不安は誰もが持っています。それぞれの希望も移り変わります。生活しやすい環境へと変えていく事は自分たちを含め地域全体の役目でもあると感じます。今年度はどんな素敵な出会いがあり、笑顔を見ることが出来るのか、心地よい気持ちで毎日が送れるようなお手伝いができればと思います。

安心安全と食べる喜び
を支える給食

給食部 管理者 山本 千穂

利用者様の「おいしい」という笑顔に支えられ、今年度を迎えられることに深く感謝

しております。 私たちの提供する給食は、健康を支えるだけでなく、一日の大きな楽しみです。

今年度の最大の目標は、改めて「徹底した安心安全の追求」を土台に捉えることです。特に当施設で注力している嚥下食（ムース食）については、咀嚼・嚥下機能に合わせた適切な形態維持を徹底したいと思えます。単に「飲み込みやすい」だけでなく、食材の色や香りとといった五感で楽しめる食事を提供することで、食欲増進と生活の質の向上に努めたいと考えます。

また、アレルギー管理や衛生管理に妥協なく取り組み、利用者様やご家族様、職員から信頼される現場体制を強化していきます。調理員一人ひとりが真心を込めて、誇りを持てる環境を整えるよう邁進したいと思えます。

季節感あふれる献立づくりを心がけ、「太陽の家の食事が一番の楽しみ」と言っていただけのように、給食部一丸となつてより質の高い食事提供に励んでいきたいと思えます。



車椅子の修理、毎日使う車椅子だからよりよい仕上がりになるようにご家族やOT、PTも加わり丁寧に話し合います。(太陽の家)



慎重に……中央の穴からボールを落とします。どのチームが一番早い？みんながんばれ～。(ひまわり学園)



ボクの大好きな食べ物は、ホットケーキなの、今年もいっぱい食べたいな。(母子療育ホーム)



みなさんのご寄付により、定番製品の台ふきんが出来上がります。笑顔に感謝を込めて。(しいの木学園)

※写真撮影のためマスクをはずしています

お知らせ

◎二〇二六年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十二名

男性 二百十九名

女性 百六十三名

日立市太陽の家

総数 十二名

男性 五名

女性 七名

日立市ひまわり学園

総数 二十九名

男性 十八名

女性 十一名

日立市しいの木学園

総数 二十名

男性 十六名

女性 四名

日立市母子療育ホーム

総数 三十四名

男性 十九名

女性 十五名

日立市障害者共同生活援助施設

総数 八十八名

男性 四十八名

女性 三十二名

日立太陽の家居宅介護事業所

総数 四十六名

男性 二十一名

女性 二十五名

日立太陽の家相談支援事業所

総数 百六十一名

男性 九十二名

女性 六十九名

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました

(敬称略) 十二月〜二月

黒澤弘明 八谷知元

一般社団法人親切会関東支部

日立厚生医院・嶋崎陽一

金澤博美 木村順子

人形劇かくれんぼ

○次の方から物品の寄贈がありました

(敬称略) 十二月〜二月

椎名将光 神田千紘

日立重症心身障害児(者)を守る会

長谷川博臣 増井雅浩

黒澤和子 伊藤奈津子

編集後記

一期一会

出会えたことに感謝いたします。(K記)